

創造的な技能を高め、豊かな表現の世界を広げる工夫

図画工作 第6学年

七尾市立有磯小学校・教諭

1 事例の概要

小学校高学年の児童の造形への関心・意欲が、初めての材料や用具、表し方を経験して高まることが多く見られる。材料では存在感のあるものに関心を示し、表現方法では手ごたえのある活動に意欲を持つ傾向が見られる。また、工作に表す活動では美しさなどを考えデザインしながら形づくり、一人一人の発想や造形感覚、創造的な技能などを働かせるようにすることが大切である。あわせて、児童が使ってみたい材料や用具などを選び、表現方法を試したりやり直しをしたりして取り組めるようにすることも大切である。さらに、友人の表現との交流がきっかけとなって、自分の表現をふり返り、新たなものを加えたり部分を取り換えたりなど自在に進めることができるようにすることも大切である。

児童一人一人の表現力（創造的な技能）はどうかと言うと、想いはあっても、それを十分に表現できないことに不満を覚えている児童も多い。想いを表現できるようにするために、魅力的な題材を用意するとともに、用具の扱いにも十分に慣れさせておく必要があるのではないだろうか。

児童の生活様式が変化してきている今、用具に関する正しい知識をもち、それらを適切に扱えるかどうかということの重要度が増してきていると思われる。用具に関する適切な知識とスキルがあるかどうかで、一人一人の表現に差が出るのではないだろうか。

導入の工夫、材料の工夫とあわせて、用具の扱いの習熟にも力点を置いた指導を行うことで、題材に興味を持たせるとともに、児童一人一人の個性を生かし、表現及び鑑賞にかかわる資質や能力を高めるような指導を進め、その評価をしたいと考え取り組んだ。

A-1 児童の実態

2 実践内容

(1) 題材の目標

- ・実際に使う場面を想像しながら、楽しんでつくろうとする。 【造形への関心・意欲・態度】
- ・針金を折ったり曲げたりしながら想像を広げ、つくりたい形を思いつく。 【発想や構想の能力】
- ・自分の思いを豊かに表現するために加工の順番を考えたり、材料の良さを生かしたりして創意工夫して表す。ペンチなどの用具を適切・安全に、また、大切に使う。 【創造的な技能】
- ・鑑賞会で作品を点灯して展示し、用途や美しさなどについて想いを広げ、感想を発表する。 【鑑賞の能力】

(2) 指導上の工夫点

- ① 導入の工夫・・・創作意欲がわくような題材の与え方
- ② 表現の幅を広げる工夫・・・用具使用の習熟のための課題と、積極的にお互いの作品を見合うことの奨励
- ③ 材料提示の仕方の工夫・・・創造意欲を喚起する材料の用意と、製作しやすさを考えた材料の提示の仕方
- ④ 鑑賞の工夫・・・見学タイム、ショータイム、鑑賞カードで場と機会の設定
- ⑤ 評価カードの工夫・・・製作段階ごとにふりかえりカードの記入

B-1 単元計画

B-2 準備物

3 指導の実際

学習活動		・指導上の留意点 ◆評価
1. 前時までをふりかえり本時の課題をつかむ	「ランプシェードをつくろう」 ・自分の計画をふりかえる	・デザインカードをもとにふりかえる時間を設ける
2. 製作する	《骨組みに色々なものを使って飾り付けをしよう》 ・用具・材料の扱い方には気をつける ・材料に無駄が出ないように計画する ・時々出来具合を確かめる ・友だちの作品を見る	・材料を十分に用意し選びやすい状態で提供する ・用具の扱いについては安全な使い方を押さえる ・丁寧な作業、独創的な作業、協力し合う姿をほめる ・切れ端などは決められた箱に入れるよう促す ◆用具を適切に使い、材料を生かしながら効果的につくっている【創造的な技能】
3. あとかたづけをし、ふりかえりカードを書く	「あとかたづけをして、ふりかえりカードを書こう」 ・次回の製作の事も考えて、ていねいにかたづける ・ふりかえりカードを書く	・用具・材料の後片付けの大切さを意識できるように声かけする

C-1 指導案

C-2 授業記録

C-3 計画図

C-4 作品紹介カード

C-5 ふり返りカードと鑑賞カード

C-6 作品

4 成果と課題

(1) 成果

児童たちは黙々と製作に向かい材料を用具で加工し、作品は当初のデザインよりもずっと手の加えられたものになっていった。中には全然違う方向へと向かっていく児童もいたが、非常に高い集中力で作品を作り上げていった。扱ったことのない材料と出会い、使ったことのない用具と出会ったことで児童たちの表現意欲は高まった。後は適切な扱い方を教え、児童たち自身が求める表現方法のヒントを与えることによって、創作活動はどんどん進んでいった。

材料の扱い方を知り、材料と自分の仲立ちである用具を適切に使いこなせるようになることは、表現の幅を広げることになったと思われる。また、このことは、今後、表現活動に向き合う機会を増やすことにもつながるとと思われる。

(2) 課題

今回の活動では、児童の創作意欲は高まったが、残念ながら一人一人のオリジナリティあふれるようなデザインを生み出すにはいたらなかった。今後はもっと造形的に多様なものが生まれるような支援と工夫が必要であると思われる。また、みんなと同じようなものを好むのではなく、児童自身が多様な価値観を持てるような機会、様々な材料や美術作品に出会わせる機会も必要となるであろう。

5 その他

参考文献 : 図画工作科教師用指導書 5・6下 日本文教出版